

つながり

茅ヶ崎市立病院

特集

病院の災害対応

“もしもの時”を支える力

53

2026.01



◀院外支援活動のため、石川県珠洲市に向かうDMAT隊員の様子。医師、看護師、業務調整員でチームを編成し、それぞれの役割を果たしながら災害支援にあたります。

特集

病院の災害対応

南海トラフ巨大地震をはじめとした大規模災害の発生が指摘される中、地域の医療機関には、平時から災害に備え、住民の安全と健康を守るという重要な役割が求められています。当院では、災害発生時に迅速かつ確実に医療を提供できるよう、さまざまな体制整備や訓練、備蓄の拡充に取り組んでいます。今回のつながりでは、こうした当院の災害対応への取り組みをご紹介します、いざという時に地域の皆さまが安心していただけるよう、当院の医療体制についてお知らせします。

災害時の病院の役割～災害拠点病院とは～

当院は、災害時の医療救護活動において中心的な役割を担う病院である「災害拠点病院」として神奈川県から指定を受けています。現在神奈川県内で35施設が指定されている災害拠点病院は、災害による多数の負傷者を受け入れるだけでなく、入院・外来患者さんの安全を守り、医療を継続できる「災害に強い病院」であることが求められます。

そのため当院では、災害時にも医療提供を続けられるよう、施設や設備などインフラの強化を進めるとともに、災害対応訓練を定期的に行っています。また、DMAT（災害派遣医療チーム）を派遣し、他地域で発生した災害への支援にも積極的に取り組んでいます。



—災害拠点病院には多岐にわたる役割が求められます—

災害拠点病院の機能

救命医療を行うための高度診療機能

被災地からの重症傷病者の受入れ機能

傷病者の広域後方搬送への対応機能

医療救護班の派遣機能

地域医療機関への応急用医療資材の貸出し機能

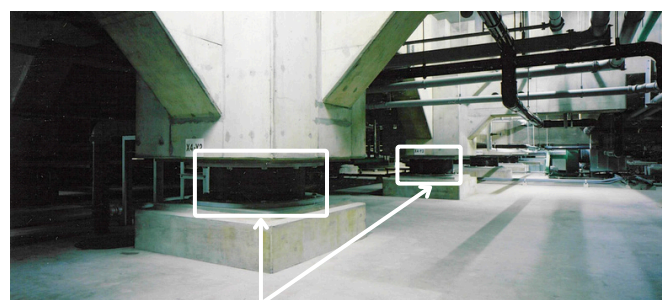
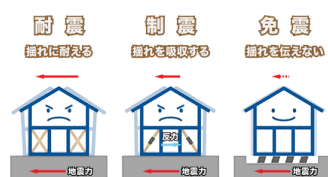
 災害時に病院はどうなる？当院のインフラをご紹介します。

災害が発生した際、まず最優先となるのは院内にいる入院患者さん・外来患者さんの安全確保です。

当院では、災害時にも医療を途切れさせないため、さまざまなインフラ設備を整え、万が一の状況にも対応できる体制を整えています。

免震構造で建物の揺れを軽減

当院の建物は地震による揺れを軽減する「免震構造」になっています。地下に設置された巨大なゴムがクッションとして病院全体を支え、地震が起きた際にはこのゴムが揺れに応じて動くことで建物全体の揺れを軽減します。



免震階の様子。柱の下の巨大なゴムが建物を支えます。



非常用発電設備



貯水槽

停電時も自家発電で医療を継続

停電に備え、当院では自家発電設備を完備しています。非常用電源には、重油で稼働するものとガスで稼働するものの2種類があり、災害時には生命維持に欠かせない設備を優先して稼働させます。この体制により、最大で3日間は電力を確保できる見込みとなっています。

水や食料の備蓄も欠かせません

当院の備蓄倉庫には、院内の患者さんが3日間食べられる量の食料（1回約300人分×9食分）を備蓄しています。また、貯水槽には283㎡の水を蓄えており、断水が発生した場合でも、3日間の医療行為を継続できる体制を整えています。

DMATによる院外支援活動

当院は神奈川県より「神奈川DMAT指定病院」として指定されています。令和6年能登半島地震の発災時には、厚生労働省からの要請に基づきDMAT(災害派遣医療チーム)を派遣し院外支援活動を行いました。

活動の拠点は地域の拠点病院で入院治療ができる唯一の病院である、珠洲市総合病院で、最大40床の入院病床を確保するため、毎日3～10名の患者さんが石川県立中央病院へ転院搬送されていました。搬送には、交通インフラの損傷が大きかったことから、DMAT車両に加えて自衛隊ヘリやドクターヘリも活用されました。

令和6年能登半島地震被災地に5名の隊員を派遣



DMAT隊員5名が、令和6年1月13日～18日にかけて診療面、運営面でのサポートを行いました。活動期間中、隊員は病院内や車両で宿泊し、食事は各自が持参しました。



現場での引継ぎを終え、令和6年1月19日に無事に全員が帰任。多くの職員が出迎えました。



茅ヶ崎市立病院
CHIGASAKI MUNICIPAL HOSPITAL

DMATとは？

県内外で地震及び航空機・鉄道事故などの大規模災害の発生直後に活動できる機動性を持ち、救急治療を行うための専門的な訓練を受けた災害派遣医療チームです。

密着！院内外の連携を高める災害対応訓練

当院では、職員一人ひとりの災害対応能力を高め、多職種連携による迅速かつ確かな情報共有や組織体制を確立することを目的として災害対応訓練を毎年実施しています。訓練には当院職員以外に災害協力病院や消防本部、委託事業者も加わり総勢約140名が参加しました。



トリアージタグ

限られた人的物的資源のなかで、最大多数の傷病者に最善を尽くすために、傷病者の緊急度と重症度をふまえ、処置や搬送を行う優先順位を決めることを「トリアージ」といいます。この写真はトリアージした情報をもとに色分けし、傷病者に付ける「トリアージタグ」といい、色の区分は緊急の度合いを示します。

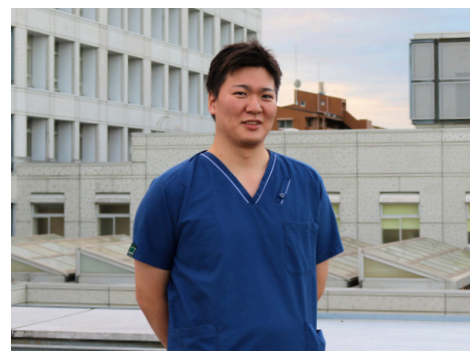


実際に災害が発生した状況を想定し、院内外の情報を収集し、災害協力病院との通信訓練や院内外情報の集約や伝達のシミュレーションを行ったほか、ライフラインや物資の確認およびEMIS（広域災害・救急医療情報システム）への入力操作訓練も行いました。



車椅子やストレッチャーを用いた傷病者の受入や転院搬送だけでなく、60キログラムの人形を担いで階段での移動訓練も行いました。情報が集まる災害対策本部ではトリアージを行う救護班からの状況報告を受けて、情報の集約と対応の意思決定を行いました。



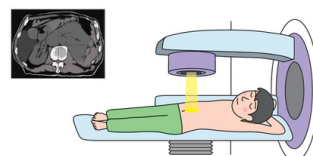


放射線科 診療放射線技師
堀田 良平



体の中を画像で「見える化！」 診断・治療を支える診療放射線技師

診療放射線技師は、X線(レントゲン)やCT、MRIなどの医療機器を使って体の中の様子を画像として写し出し、医師の診断や治療に役立つ情報を提供する仕事です。また、がんなどの治療で行われる放射線治療では、治療の準備や確認、装置の操作を行い、安心して治療を受けていただけるよう取り組んでいます。



放射線治療は、手術、薬物療法と併せてがんの3大治療法と言われており、一般的に副作用や体への負担が少ない治療と言われています。

文武両道の学生時代から医療の道へ

学生時代は、小学校から柔道に打ち込みながら、学業では理系を専攻し、特に物理学に興味を持っていました。また、医療に関わる仕事にも関心があったことから、理系の知識を生かしながら医療に携われる職業として、診療放射線技師の道を選びました。

出身は東京ですが、地域に根差した病院として医療を担っている点や、検査業務だけでなく、学生時代から興味を持っていた放射線治療を行っている点に魅力を感じ、茅ヶ崎市立病院への就職を決めました。



放射線治療装置の点検中。高精度な放射線照射が求められるため、日々のメンテナンスは欠かせません。

安全にこだわって医療を提供したい

茅ヶ崎市立病院の放射線科では、安心して検査や治療を受けられるよう、分かりやすい説明と丁寧な対応を心がけています。

検査に加えて治療でも放射線を扱う部門として、患者さんはもちろん職員の被ばく量にも配慮し、機器の適切な管理を徹底するなど、安全性を重視しながら日々の業務に取り組み、安心して医療を受けていただける体制を整えています。



約20名の診療放射線技師が、検査や治療業務を一定期間ごとにローテーションで担当しています。

患者さんの安心とチーム医療がやりがいに

検査や治療が無事に終わり、患者さんが安心した表情で帰られる姿を見ると、この仕事のやりがいを強く感じます。また、検査や治療が計画通りに進み、医療チームの一員として自分の役割を果たせた実感できる点も、この仕事の好きなのところです。

休日は友人とサウナに出かけ、気分転換をしながら心身をととのえる時間を大切にしています。時間が取れないときには、自宅で水シャワーを浴びてリフレッシュしています。



樽でできたサウナにも、旅先でホテルを探す時は、サウナがあるか確認してしまいます。



「健やか・共創」

茅ヶ崎市立病院

発行・編集：茅ヶ崎市立病院 患者支援センター

発行日：令和8年1月
〒253-0042 神奈川県茅ヶ崎市本村5-15-1
TEL 0467-52-1111(代) FAX 0467-52-1133
<https://hosp.city.chigasaki.kanagawa.jp>



病院ホームページ

